

愛知大学人文社会学研究所 シンポジウム

国際的民間交流と平和運動の歴史とアクチュアリティ

—— 青い目の人形と答礼人形の辿った歴史から



1927年、同志社大学・京都大学で教鞭を執った米国人宣教師
 ギョーリック博士が中心となり、アメリカの子供と親たちと呼び掛けて
 約1万3千体の「青い目の人形」が日本に送られた。これを受けて、
 日本では濫澤栄一らが、豪華な日本人形58体を「答礼人形」として送った。
 答礼人形は、道府県や六大都市の代表として、それぞれの地域にちなんだ
 名を持ち、愛知県からも「ミス愛知」「ミス名古屋」が海を渡った。
 時代の狂気の中で、青い目の人形の多くは破壊され、答礼人形も少なからず
 行方不明になった。しかし、困難な時代を乗り越え、今日でも青い目の人形と
 答礼人形を探し出す運動や、人形を通しての日米の民間交流は続いている。
 太平洋を挟んで、人形を通して90年間にわたって民間主導での平和交流が
 続けられてきたこと自体、世界的にみても稀有なことであり、単なる歴史の
 一幕に留まらない今日的、未来的価値を持っている。

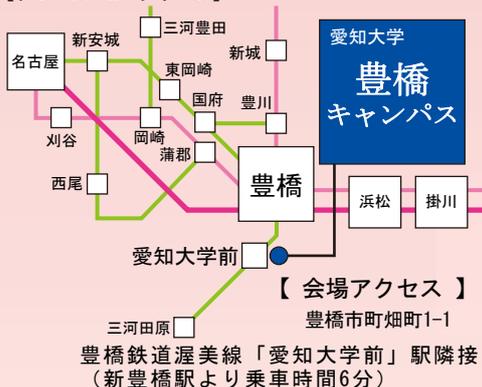
このなかで、2013年に「ミス愛知」の所在が正式に確認され、それを受けて
 2017年の里帰りに向けた運動が、愛知県でも立ち上がった。その「答礼人形を
 里帰りさせる会」の設立を記念して、人形を通じた国際的な民間交流の「歴史」、
 「現在の到達点」、そして「未来の可能性」を考えるシンポジウムを開催する。



設楽町立田峯小学校
 【グレース・A・グリーン】



幸田町立幸田小学校
 【グレース・エッサ】



豊橋市立西郷小学校
 【コネタ】

【ミス名古屋】

2016年7月9日(土) 14時~17時 愛知大

- オープニング：「青い目の人形」新作ミュージカルテーマソング（親と子のみどりの杜合唱団）
 - 基調講演：「日米親善人形交流90年—100年にむけて—」青木勝氏（人形の吉徳・顧問）
 - 東海三県の平和運動・日米交流運動からの報
- 岐阜県・三重県の「青い目の人形」・「答礼人形」を用いた国際平和交流の展開と到達点：
 魚次龍雄氏（友情の人形全国交流センター）・岩脇彰氏（三重県答礼人形を里帰りさせる会）
 「ミス愛知」の発見と里帰りに向けて：夏目勝弘氏（答礼人形を里帰りさせる会副事務局長）

シンポジウムに先立ち、答礼人形を里帰りさせる会の設立記念総会を開催します。

◎主 催／愛知大学人文社会学研究所・答礼人形を里帰りさせる会（愛知）
 ◎後 援／豊橋市教育委員会・豊川市教育委員会

連絡先：愛知大学人文社会学研究所（0532-47-4167）・答礼人形を里帰りさせる会事務局（0533-89-7082：豊川市文化協会内）